

芸術工学実習 (D) 5 後半

「心理物理学測定法による感覚量の測定」

目的

感覚を定量的に表すためには刺激や感覚が量的に測定されることが必要ですが、一般に感覚は直接に測定が困難で、ただ感覚が存在するか否かもしくは他の感覚よりも大きい小さいか等しいかがわかるだけです。そこで間接的にある感覚を生じさせることができる刺激の最小の強度を測定し、これを閾値（いきち）と定義しています。感覚に応じて様々な閾値が存在し、例えば、視覚系においては「色の検知」に関係する色弁別閾値や、「明るさの検知」に関連する明るさ閾値などが存在します。このような閾値の測定法は心理物理学測定法（もしくは精神物理学測定法）として体系化されています。本実習では、心理物理学測定法を用いて感覚量を具体的に測定することにより、基本的な心理物理学測定法を理解することを目的とします。

日程

- 第1週 実験心理学の説明
心理物理学測定法の概要の説明
- 第2週 具体的にどのような感覚量を測定するか
） テーマ決め、および実験手法検討
- 第5週
- 第6週 解析の共有、実験結果のまとめ
- 第7週 発表

テーマ例

- ・プリンと茶碗蒸しの境界の測定
- ・クッキーの甘さ感度についての個人差の測定
- ・ヒトとキャラクターにおける最適な瞳の大きさの違いの測定
- ・水とお湯の音の違いの測定
- ・赤紫と青紫の境界の測定

備考

心理物理学測定法による簡単な人の感性評価ができることを目標とします。

プログラミングに関する知識は必要ありません。

設備および指導の都合上、受講者数に上限を設けます。情報環境デザイン学科からは最大7名程度とし、受講希望者が上限を超えた場合には、これまでの関連科目の履修状況等を確認のうえ調整を行います。

なお、「色彩工学基礎」または「生体情報工学」を履修した学生を優先する場合があります。受講者の決定方法等の詳細は、初回の合同ガイダンス時に説明します。



研究室紹介ビデオ
気になった方は見てみてください